

当院 VA センターにおける Drug-Coated Balloon の治療成績

吉祥寺あさひ病院 バスキュラーアクセスセンター

○野口智永（のぐちともなが）、矢野卓郎

【緒言】当院にて使用した Drug-Coated Balloon（DCB）の治療成績について検討考察したので報告する。

【対象】2021 年 3 月～2023 年 12 月に DCB を初回使用した 60 症例。平均年齢 72.8 歳、男性 63.3%、透析歴は平均 6.3 年、原疾患は糖尿病性腎症 55%。

【方法】DCB 使用前後の開存率を Kaplan-Meier 法にて算出し、log-rank test にて比較した。

【結果】DCB 前後の一次開存率の中央値は、前 61 日→後 98 日と有意に延長した。開存期間は、90 日後は前 23.3%→後 79.7%、180 日後は前 1.7%→後 36.3%、と有意に改善した。また DCB 使用後に POBA による PTA を繰り返し実施した症例の一次開存期間の中央値は、96.5 日→87.5 日→69 日と徐々に短縮した。

【考察】IN.PACT AV Access Study と比較すると、180 日後の開存率が低かったが、当院では主に頻回狭窄例に対して DCB を使用したことが原因と考えられた。しかし頻回狭窄例においても開存期間は延長しており、一定の効果はあると思われた。

【結語】当院における DCB の治療成績を報告した。